

市民活動情報紙ジョイナス

JOINUS

2017.2.15 vol.46

好きなことを続けること。

それはいつか必ず街のためとなる。

- ・カワベリング発案者、
榎原実規男さんの活動への想い
- ・消防団員としてのもう一つの顔
- ・みんなの行動が久留米を変える
- ・参加してみることから始める

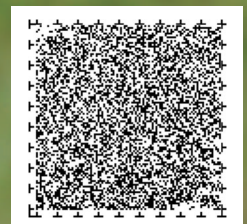
発行:久留米市協働推進部協働推進課

編集:くるめ協働 CASE PJ

メール:v-shien@city.kurume.fukuoka.jp

電話:0942-30-9064 / FAX:0942-30-9706

住所:久留米市城南町15-3



好きなことからまず始める、 それを続けていくうちに 仲間は自然と集まる

Good News副代表
(河川清掃ボランティア団体)

ナラハラ ミキオ

榎原 実規男 さん

・原古賀町在住 35歳

・ボート販売店経営

・趣味は釣り

・地元の消防団員

(団員歴15年)

川辺の今の現状

近年、河川などを活用したまちづくりへの規制緩和が進み、市民や民間のアイデアを積極的に取り入れる動きが進んでいる

カワベリングとは何か？

筑後川の未来を創るため、市民や行政、企業が一つになって想いや夢を形にするために開催するワークショップやセミナーのこと

カワベリングの目標

筑後川流域の賑わいをテーマにし、流域で集いの場や賑わいの空間を創ること。そして、日本一愛される筑後川を目指す

川辺を活用したまちづくりに取り組んでいる榎原さん 彼が抱いている活動への想いを聞きました

02

Q1.長年取り組んでいる河川清掃について教えてください。

A1.河川清掃を始めたきっかけはグッドニュース Good News代表の中島さんとの出会いでした。河川清掃って誰にでも出来ることなだけで危険性やごみの量などを考えるとちょっとハードルが高いと思っていました。でも彼は楽しみながら河川清掃をしていました。



Good News 清掃活動の様子(“ゴミ拾い活動グループ”でWEBで検索)

そんな彼に惹かれ、僕もGood Newsの一員になろうと思いました。月1回の河川清掃活動というよりは月1回の河川レクリエーション活動の方がしっくりきますね。



カワベリングチラシのデザイン

Q2.川辺での活動を盛り上げるカワベリングという取り組みを始めたきっかけは？

A2. 自分の生活のベースに水辺を利用した釣りやボートがあります。たまたま久留米市が発行している観光者向けのパンフレットを見る機会があって、表紙に筑後川の写真が大きく載っていたんですが、その川の周りに人が一人も写っていませんでした。すごく自分の中でそれが衝撃的で、「筑後川に人がいない」というのは、ずっと川を利用している僕としてはとて

も寂しく感じました。

だから、筑後川をもっと人が楽しめる場にしたいな、とこの川についての想いを語り合うカワベリングの取り組みを始めました。

Q3.榎原さんが活動する上で大切にしていることを教えてください。

A3. 市民活動って人が周りにいないとできないと思うんです。今、カワベリングの活動ができてるのは、自分の周りに仲間がいてくれるから。カワベリングの発案は自分なんですけど、Good Newsが主催で動いてくれているいたり、Chietsuku ^{チエツク}プロジェクト(知恵と知恵とがくつつくプロジェクト)という団体が自分のアイデアに対して、上手く進められるように協力してくれるおかげで今のカワベリングがあるんですよ。